

国語科学習指導案

令和8年5月27日(水) 5校時 2年B組教室

授業学級 2年D組(35名)

授業者 黒岩 瑞樹

1 単元名 「論理の展開を捉え、説明の工夫を考えよう—『クマゼミ増加の原因を探る』」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 技 情報と情報との関係の 様々な表し方を理解し使 っている。【(2)イ】	思 「読むこと」において、観点を明確 にして文章を比較するなどし、文章の 構成や論理の展開、表現の効果など について考えている。【C(1)エ】	態 積極的に文章の構成や論理の 展開、表現の効果などについて考 えて、文章を表す関係図として適 切なものについて自分の考えを まとめようとしている。

3 基礎的研究

(1) 生徒の研究

『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ(1年)において、生徒は、文章の構成や展開について考える学習活動を行った。生徒は、筆者が立てた二つの仮説がどちらも立証された上で結論が述べられているという文章の構成や展開は、筆者の導いた結論を読者がより受け入れやすくなることにつながると捉えた。一方で、筆者が用いた二つの仮説は筆者の研究のごく一部であり、なぜこの二つの仮説が選ばれて他の仮説は選ばれなかったのか、筆者の意図を考えようとする生徒の姿はあまり見られなかった。これは、文章の構成に対して、「なぜそのようにしたか」という筆者の意図という観点で考える場面が単元展開の中で扱われなかったことが要因であると考えられる。

(2) 素材の研究

本単元で扱う「クマゼミ増加の原因を探る」は、検証に失敗した仮説を含めた三つの仮説の検証結果を説明し、それぞれに小見出しを付けた六つの部分で構成された報告文である。検証に成功した仮説だけで文章が構成されていないことで、筆者がどのような意図をもって論理を展開しようとしたかについて、考えることのできる材である。

また、本単元で教師が提案する関係図は、文章の構成を図にして表すことで、文章に含まれる情報同士の関係や文章の構成について視覚的に捉えたことを基にして、論理の展開について考えることのできる材である。

(3) 教材化の研究

第1時、教師は本文を範読後、この文章を表す図として適切なものはどれかと問い掛け、教師作成の関係図を四つ提示する(図1)。生徒は、四つの関係図における矢印の使い方や、包含関係などの違いに着目し、自分の考えをもつだろう。教師は、本文を表す適切な関係図の捉えが定まりきらない生徒の反応を受けて、単元の学習問題を「論理の展開を表す関係図として、適切なものはどれだろうか。」と設定する。

生徒は、三つの仮説が他の仮説や文章のまとめとどのような関係であるのかということや、筆者がこの文章によって伝えたいことをどのように表しているかということ個人追究で考えていこう。その後、教師は、全体追究で友の考えを聞く場を設ける。その中で、結果として否定された「クマゼミ増加の直接的な要因」でない仮説1の捉え方に違いがあり、本文を表す関係図として適切なものを選ぶ上で、特に考える必要があることを確認する。生徒は、検証に成功した仮説2や仮説3と並んで仮説1が示されていることの意味や、仮説1が文章の中でどのような役割を果たしているかについて追究していくだろう。

単元の終末で、生徒は、この文章を表す関係図として適切なものを選び、筆者がこのよ

うな文章の構成や論理の展開の報告文に表した意図について、自分の考えをまとめていくだろう。

このような姿は、国語科の「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている姿だと捉える。

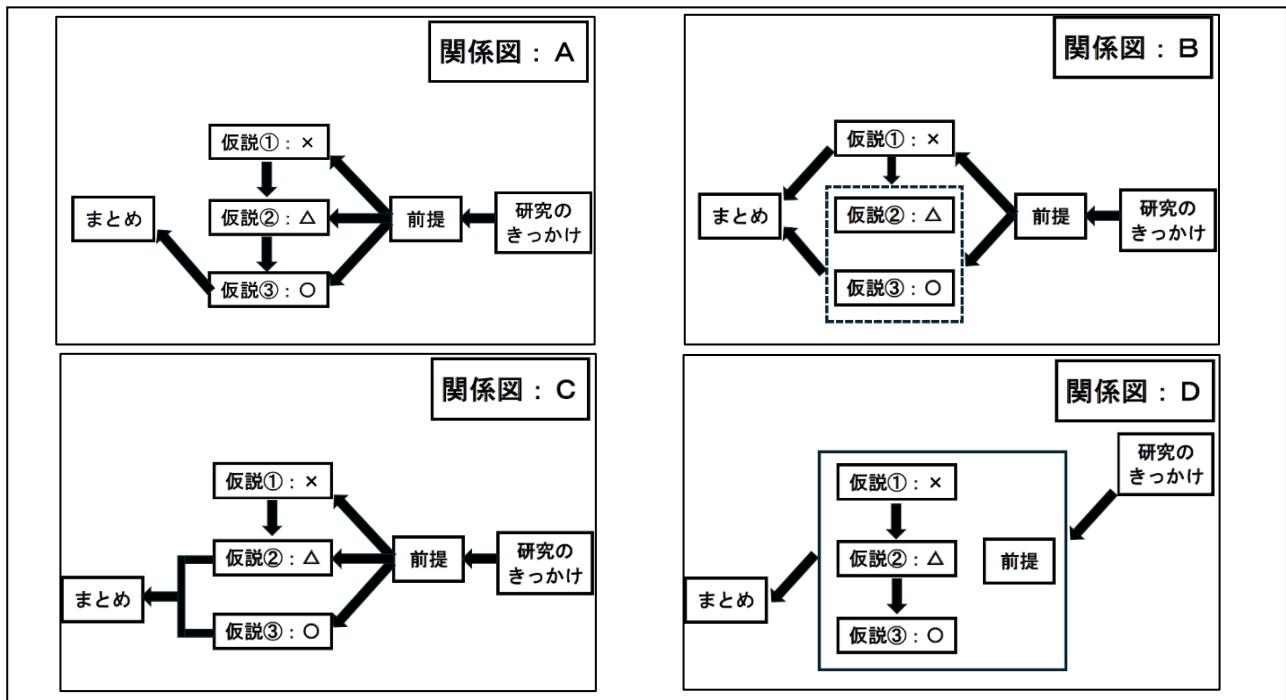


図1 関係図の例

4 単元展開 文章の構成や論理の展開を解釈する学習

全5時間扱い 本時は第3時

段階	◆ねらい ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」 教師の指導・支援	評価の観点	時間
導入	◆ <u>単元の学習の見通しをもつ。</u> ・四つの関係図を提示し、単元の学習問題「論理の展開を表す関係図として、適切なものはどれだろうか。」を設定し、追究に入ることを確認する。 ・関係図を一つ選び、選んだ理由や、単元の学習において追究していくとよさそうな点についての考えを書く場を設ける。	● <u>態</u>	1
展開	◆ <u>関係図から、文章の構成や論理の展開について考えをもつ。</u> ・四つの関係図のうち、自分が前時に選んだ関係図について、なぜそう考えたのか理由を記述する個人追究の場を設ける。 ・関係図A～Dを選んだ理由について、全体で考えを共有する場を設ける。 ・筆者が前提として示した中から、三つの仮説が立てられていることを確認する。 ・部分的に検証に成功した仮説2と検証に成功した仮説3は、筆者が主張したいことに関わっていることを確認する。 ・仮説1が、他の二つの仮説やまとめとどのように関係しているかの捉えに違いがあることを確認する。 ・単元の学習問題に対する現在の自分の考えを書く場を設ける。 ・仮説1の役割の在り方について、考えている生徒の反応を取り上げ、次時に生かすようにする。	○ <u>知技</u> ● <u>思</u> ● <u>態</u>	2 ～ 3 (本時は第3時)
	本時案参照		
終末	◆ <u>単元の学習を基に、単元の学習問題に対する自分の考えをまとめる。</u> ・今までの学習を基に、単元の学習問題に対する自分の考えを記述する場を設ける。 ・単元の学習を振り返り、今後の国語の学びや日常生活に生かせそうなことについて考える場を設け、見いだしたことについて全体で共有する。 ・関係図が、文章の構成や論理の展開を理解する上で、全体と部分の関係を把握することに有効であることを確認する。	○ <u>思</u> ○ <u>態</u>	4 ～ 5

5 本時案

(1) 単元名・学年「論理の展開を捉え、説明の工夫を考えようー『クマゼミ増加の原因を探る』」・2年

(2) 主眼

筆者が結果的に否定された仮説1を示した理由を考える場面で、文章の全体と部分や、仮説1とその他の部分との関係に着目して、仮説1の役割を説明することを通して、仮説1がある理由について記述することができる。 【C(1) エ】

(3) 単元の学習問題：論理の展開を表す関係図として、適切なものはどれだろうか。

(4) 本時の位置（全5時間中 第3時）

前時：それぞれが選んだ関係図について、選んだ理由を全体で共有した。

次時：単元の学習を基に、単元の学習問題に対する考えをまとめる。

(5) 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1. 本時の学習の見通しをもつ。	ア 仮説2・3は一因として必要そうだけれど、結果的に否定された仮説1がある理由がうまく説明できない。なぜ、沼田さんは仮説1を示したのだろうか。	・前時の振り返りから、仮説1の役割について考えたいというアのような生徒の反応を生かし、学習問題を設定する。	10分
		学習問題：沼田さんはなぜ結果的に否定された仮説1を示したのだろうか。		
		イ 「研究のきっかけ」や「まとめ」に書いてある文章全体の関わりから、仮説1には役割があると言えそうだ。 ウ 仮説1とその前後の部分との関係に着目するとよさそうだ。	・イやウのように、仮説1と他の部分との関係や、文章の全体と部分に着目している生徒の考えを取り上げて、学習課題を据える。	
学習課題：文章の全体と部分や、仮説1とその他の部分との関係に着目して、仮説1の役割を説明しよう。				
展開	2. 個人で追究する。	エ 研究全体について述べている「前提」では、「①の卵は野外で冬を越すため、厳しい寒さに耐える必要がある。」とあり、卵と気温の関係について述べている部分が仮説1とつながっているのではないか。それでも、仮説1を示す理由はまだうまく説明できない。友はどう考えたのだろうか。	・考えを記述する時には、本文や関係図を根拠にして書くことを確認する。 ・追究が進まない生徒には、前時に選んだ関係図を用いて仮説1と関係がある部分を問い掛ける。	10分 20分
	3. 追究した内容を全体で共有する。	オ Aさんは、「仮説1の検証の結果、気温上昇がクマゼミ増加の原因でないことが明らかになった。卵の段階から仮説2や3の孵化の時期の検証に進むことができたので、仮説1は前提と他の仮説をつなぐ大切な役割がある。」と言って、仮説1が必要な理由が分かった。他につながっているところはないのだろうか。 カ Bさんは、前提を基に、クマゼミの成長に沿って実験していくことで読者が納得できるようにしていると言っていた。複数の部分のつながりを合わせて考えることにも意味があると分かった。 キ Cさんは、「筆者が一番伝えたいことは、まとめの『科学的な根拠を一步一步積み上げて挑む姿勢』だから、失敗したことも含め、仮説の検証を積み上げることを意識して仮説1を入れた。」と言って、筆者の意図があることが分かってきた。	・関係図を掲示し、仮説1の内容とその他の部分との関係や役割について、その周辺に端的な言葉で板書して示す。 ・仮説1とその他の部分との関係について、つながりを見いだしているオのような生徒の考えを取り上げる。 ・カのように仮説1と2・3のまとまりでつながりを見いだして考えている生徒の考えを取り上げ、関係図ではどのように表されるか確認する。 ・キのように筆者の意図に触れている生徒の考えを取り上げる。 ・全体追究を通して分かったことを基に、学習カードに学習問題に対する自分の考えをまとめる場を設ける。	
終末	4. 本時の学習のまとめをする。	ク 仮説1があることで前提から導き出される可能性が一つ排除され、その分原因を絞り込み、次の仮説につながる。そして、「科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む姿勢が大切である」というまとめの文につながることから仮説1があると言える。そうなると、関係図はBだと言えそうだ。	・クのように筆者の意図に触れながら、考えているクのような考えを取り上げ、共有する。 仮説1がある理由について、記述している。 (学習カード)	10分